

まちのアルバム

園児の皆さん、メリークリスマス！

▼12月8日 野洲第3保育園

ドウタクくんとやよいちゃんが市内公立保育園、幼稚園、こども園を訪問しました。

サンタクロース姿で登場した2人に園児たちは大盛り上がり。2人に「好きなたべものは？」「好きな花は？」と質問するなど興味深々の様子でした。

最後に、今年一年よい子で過ごした園児たちへ、クリスマスプレゼントが贈られました。



▼11月23日 近江富士花緑公園

毎年好評！ストック・ウォーキング



今年もストック・ウォーキングを近江富士花緑公園・希望が丘文化公園で開催し、56人が参加されました。

参加者は市スポーツ推進委員のガイドのもと、ストックと呼ばれるポールを使いながら紅葉が見頃となった公園内を歩いて散策。ストックを使った歩行は、普段使わない筋肉を使うことができ、運動効果の向上につながります。

コース途中の希望が丘文化公園では、職員からどんぐりにまつわる説明もあり、大いに盛り上がりました。

歴史の小窓

—学芸員のメッセージ—

208

歴史民俗博物館 ☎587-4410、Fax587-4413

近江の銅鐸

現在その所在がわからないものや推定出土のものなどを含めて、近江から発見された銅鐸は約40個を数えます。内訳としては、野洲市の大岩山銅鐸が明治と昭和の2回にわけて合計24個出土しており、県内出土銅鐸の約6割にも及びます。

その他に、野洲市に隣接する地域では竜王町で2個が見つかっており、守山市からも複数個出土したとされています。また、大津市からも出土例が認められます。このように、大半が県南部で確認されていることも近江出土銅鐸の特徴として挙げられます。

銅鐸は、鈕（吊り手）の形の違いなどから4つの時期や段階に分けることができます。その移り変わりのなかで、祭りのカネとしての役割から、同じシンボルを持つ地域どうしのつながりの証になっていくとも考えられています。

そのような変化のなか、近江出土銅鐸が最も新しい段階に比較的多くみられることも注目されます。

平地から発見されるものもありますが、銅鐸は山や丘陵の斜面に埋められていることが一般的です。工事の際などに偶然見つかることがあり、県内においても、今後、見つかる可能性もあるでしょう。

下の絵は、当館に展示している大岩山銅鐸埋納想像図です。土中から発見される銅鐸には埋め方に規則性のようなものが認められ、意図的な行為であったことをうかがい知ることができます。近江の銅鐸も当時このような儀式が行われ、その終わりを迎えたのかもしれない。

（博物館学芸員 角 建一）



大岩山銅鐸埋納想像図(安芸早穂子氏画)

休館日：月曜日（1月10日は開館）、1月1日(祝)～4日(火)・11日(火)
※市民は入館無料
(運転免許証やげんきカードをご提示ください。)